

## 2026 国際教養科 NEWS 7 月 ①

## 7/11～7/20 2年国際教養科 イングランド オックスフォード・ロンドン 語学研修へ出発

今回大変にお世話になった㈱ISA 高崎支店の教育旅行添乗員のバレスター・あゆみさんが毎日執筆してくださった報告書です。長編ですので数日ごとまとめて掲載させていただきます。

### 【長野西高等学校 海外語学研修 1日目～2日目報告書】

今年も暑さの厳しいなか、長野駅に生徒が集まってきます。2026年の海外語学研修がスタートしました。集合時間には、生徒たちだけでなく、校長先生や教頭先生をはじめ、多くの先生方、そして保護者の皆様がお見送りに駆けつけてくださいました。期待と少しの緊張が入り混じる表情で「行ってきます！」と手を振り、新幹線へ乗り込みます。今年で3回目となるイギリス研修。見慣れた光景の中にも、新しい物語の始まりを感じる出発となりました。新幹線、成田エクスプレスと順調に乗り継ぎ、最初の難関はやはり東京駅です。「うわ…人多い…」というため息にも似たつぶやきが聞こえてきます。それでも互いに声を掛け合いながら歩みを進め、成田空港には予定どおり到着。チェックインや保安検査も大きな混乱なく終え、いよいよイギリスへ向けて出発です。

今回利用したのはポーランド航空 (LOT Polish Airlines)。約14時間のフライトを経て、乗り継ぎ地となるワルシャワ・ショパン空港へ向かいます。作曲家フレデリック・ショパンの名を冠したこの空港は、ヨーロッパ各地への玄関口として多くの旅行者が利用しています。長時間のフライトということもあり、なかなか寝付けない生徒も見られましたが、その一方で楽しみにしていた機内食の時間になると表情は一変。機内では温かい食事が2回提供され、「機内食ってこんなにおいしいんだ！」という声も聞かれ、眠気よりも食欲が勝った生徒も少なくなかったようです。

ヒースロー空港では、今年もおなじみのイエローシャツ姿のアクティビティリーダーが笑顔で迎えてくれました。「僕のお気に入りの長野西高校！待ってたよ！」という温かい言葉に、生徒たちの緊張も一気に和らぎます。3年続けて長野西高校を迎えてくれているスタッフとの再会は、これまでの先輩方が築いてきた信頼関係を感じられる瞬間でした。空港から約1時間バスに揺られ、研修の舞台となる Ruskin College へ到着。まずはカフェテリアで Packed Lunch をいただきます。サンドイッチにポテトチップス、フルーツ、飲み物という、いかにもイギリスらしい昼食です。飛行機の中で十分食べたはずですが、「せっかくだから食べてみよう」と次々に手を伸ばす姿は頼もしい限り。これもまた海外生活の第一歩です。食後は寮のすぐ近くにあるイギリスのスーパーマーケット Waitrose (ウェイトローズ) へ。色鮮やかに並ぶお菓子や飲み物、日本では見慣れない商品を見つけるたびに歓声が上がります。「スーパーですら楽しい」というのも海外研修ならではの生活で何度も訪れることになる場所ですが、初日は何もかもが新鮮に映っていました。カレッジまでの道には、赤レンガ造りの塀や歴史を感じさせる住宅が立ち並びます。その風景を眺めながら歩いていると、「イギリスに来たんだ」という実感が少しずつ湧いてきます。寮へ戻ると、カードキーを片手に自分の部屋探しがスタート。厳重なセキュリティのおかげで迷路のような建物に苦戦しながらも、無事それぞれの部屋へたどり着くことができました。

夕食は世界各国から集まった200名を超える学生と一緒にカフェテリアでいただきました。ヨーロッパやアジア、南米、中東、アフリカなど、さまざまな国や地域から集まった学生たち。同じ空間にいただけでも、世界の縮図を見ているような光景が広がります。そんな中、早くも行動を起こす生徒が現れました。他国の生徒が集ま

る輪へ加わり、気が付けば大きな笑い声が響きます。初対面とは思えないほど会話が弾み、食事を終える頃には連絡先を交換する姿も見られました。その一方で、「まだ初日だから」と仲間同士で食卓を囲む生徒もいます。この違いが今後どのような成長につながっていくのか、楽しいスタートです。

校長先生から激励のメッセージ

チェックインが、もう楽しい！



行ってきます！！



カレッジのカフェテリアでランチ♪

もう馴染んでる??



## 【長野西高等学校 海外語学研修 3日目報告書】

昨日の暑さから一転し、今朝のオックスフォードは思わず上着を羽織りたくなるほどの涼しさでした。寮にはエアコンがありませんが、この気候なら納得です。とはいえ、日中になると気温はぐんぐん上昇。それでも木陰へ入ると吹き抜ける風が心地よく、日本の夏との違いを感じます。

本日から語学学校の授業が始まります。まずはオリエンテーションとクラス分け。他国から集まったクラスメイトとのレッスンが始まりました。初対面同士で自己紹介を交わし、少しずつ教室の空気が和らいでいきます。英語で話すことはもちろんですが、それ以上に必要だったのは、自分から相手へ歩み寄る勇気でした。昨日の夕食では他国の生徒を遠くから眺めていた生徒も、今日は同じ教室で机を並べています。「話しかけようかな。でも何て言う？」そんな葛藤が教室のあちらこちらで聞こえてきそうでした。

昼食も昨日と同じカフェテリアです。しかし今日は少し景色が違います。周囲をきょろきょろ見回しながら席を探す姿は昨日と変わりませんが、一人で行動している生徒は自然と他国の生徒の輪へ入っていきます。一方、二人、三人と一緒にいると、気付けば日本人同士でテーブルを囲んでいることも。「一人の方が話しかけやすいのかもしれない。」そこに気が付いた人から動きが変わります。最初は緊張しながら恐る恐る話しかける姿でしたが、数分もするとランチを忘れて大笑い。思わず集合時間ギリギリに動いてしまうほど、時間を忘れて盛り上がりました。そしてそれを横目で眺める生徒がいたのも、また事実。

午後はオックスフォード市内を散策しました。カバード・マーケット、ラドクリフ・カメラ、セント・メアリー教会、ボドリアン図書館、シェルドニアン・シアター。歴史ある建物を前に、上を見上げては口を開け、写真を撮っては「すご...」と言葉が漏れます。ところが、そのすぐ隣ではラドクリフ・カメラの窓際に腰かけて PC を抱える学生の姿。「え、ちょっと待って。勉強してる？あそこで...？」そんな心の声が聞こえてきそうな一場面でした。私たちにとっては世界的な観光地でも、彼らにとってはいつもの大学生生活。その当たり前の風景が、この街の歴史を何より物語っていました。1879 年創業の老舗書店 **Blackwell's Bookshop** も立ち寄りました。店内には文学や哲学、医学など幅広い分野の書籍が並び、地下へ続く売り場は、かつて「世界最大の一部屋だけの書店」としてギネス世界記録にも登録されたイギリスを代表する書店です。英国のセンスを感じるインテリアと多くの本。オックスフォードという学術都市らしさを感じさせてくれます。

夜は毎年恒例のヒューマンビンゴとスピードフレンジングです。ビンゴを埋める相手を探す眼差しは、さながらハンター。目当ての相手を見つけると一直線に近付きます。最初は「ビンゴを完成させること」が目的だった一同も、気付けばゲームそっちのけで笑い合い、会話を楽しんでいました。英語で話すことに慣れたわけではありません。けれど、「話しかける」という最初の一步は、昨日よりもずっと軽くなっていたように感じます。

一日の終わり、生徒たちの日記には「自分から動けなかった」という反省とともに、「明日は自分から話しかける」「待たない！自分が動く！」という言葉が並んでいました。まだ3日目ではなく、もう3日目です。「イギリスまで来て、日本人と話すのはもったいない」と思う気持ちが、明日の行動を変える原動力となるでしょう。以上、3日目のご報告です。

イギリスの歴史を感じるラドクリフ・カメラ



嘆きの橋



まだ緊張感が漂う？



カラフル！カバード・マーケット



暑い。アクティビティリーダーの解説も熱い。



スピードフレンディングが始まりました



気が付いたら、お互い笑顔！

